

簡易化された水泳教材を用いた平泳ぎ学習指導プログラムの検討

—運動技能下位児を対象として—

浪尾 大二郎 (香川大学)

1. 目的

本研究では、運動をすることが苦手な児童(以下、技能下位児)の平泳ぎの習得を目指し、「抵抗」に着目した段階的であり簡易化された以下に示す学習指導プログラムを開発し、その有効性を形成的授業評価(総合)と平泳ぎ30秒間泳の得点の推移から検討することとした。

本実践で設定した学習指導プログラムでは、抵抗を感じやすい運動から段階的に難易度を向上させることで抵抗の少ない効率の良いフォームを習得しようと試みた。キック動作(1~5時間目)とプル動作(6~8時間目)を学習する段階においては、前に進むときと同じフォームで「漂う」や「後ろに進む」ことを中心課題として取り扱った。

表1 単元構成

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
5分	説明	W-up	W-up	W-up	W-up	W-up	W-up	W-up	W-up	W-up	W-up
10分	W-up										
15分	水慣れ	復習	平泳ぎキック	平泳ぎブル					平泳ぎコンビ	平泳ぎコンビ	グループ練習
20分											
25分	クロール	平泳ぎキック	平泳ぎキック(グループ)	平泳ぎブル(グループ)							各自練習
30分											
35分	平泳ぎキック		平泳ぎキック測定	平泳ぎブル測定							平泳ぎ30s測定
40分											
45分											

2. 研究方法

- 1) 対象者：小学校6年生(31名)
- 2) 調査期間：令和元年6月10日~7月5日
- 3) 評価方法：①形成的授業評価(高橋ら、1994) ②平泳ぎ30秒間泳の得点(表2)
- 4) 技能下位児の抽出方法：平泳ぎ30秒間泳の平均得点の下位3名(A児、B児、C児とする)

表2 平泳ぎ30秒間泳の得点表

距離[m]	5	7	9	11	12	13	……	25	……
得点[点]	1	2	3	4	5	6	……	18	……

3. 結果と考察

1) 形成的授業評価(総合)

総合の値は5段階評価で4以上を示す結果となり、本実践は学習者が満足した授業であったと考えられる(表3)。

表3 形成的授業評価(総合)

1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	6時間目
2.75(4)	2.70(4)	2.59(4)	2.65(4)	2.74(4)	2.72(4)
7時間目	8時間目	9時間目	10時間目	11時間目	
2.79(5)	2.80(5)	2.78(5)	2.64(4)	2.70(4)	

2) 平泳ぎ30秒間泳

表4から技能下位児の泳力は向上したと考えられる。また、表4より技能中・上位児以外においても泳力の向上が考えられるが、有意な向上は見られなかった。

表4 平泳ぎ30秒間泳の得点の推移

	9時間	10時間	11時間	F値	多重比較
A児	6	13	14		
B児	8	10	11		
C児	5	8	9		
全体平均	15.06	13.72	16.08	1.61	n.s

4. 結論

以上の考察から、本実践プログラムは技能下位児の泳力向上に対して有効である可能性が考えられたが、技能中・上位児の泳力向上に対しての有効性は認められず、プログラムの改善の必要性が示唆された。

5. 主な参考文献

- 1) 高橋健夫・長谷川悦司・刈谷三郎 体育授業の「形成的評価法」作成の試み：子どもの授業評価の構造に着目して、体育学研 究, 39:29-37, 1994.